

魅力再発見！ わが町の伝統文化

箱崎縞

幻の織物「箱崎縞」が75年の時を経て復元！

カジユアルな普段着として伝統を受け継ぎます。

「箱崎縞」は戦前まで福岡市東区の箱崎地区で生産されていた綿織物です。明治時代に発祥した箱崎縞は、当時半農半漁を主体としていた箱崎で副業の綿織物として栄えました。丈夫で実用性にも優れており、日常着としてはもちろん、野良仕事や炭鉱労働者の作業着などにも愛用されていたといわれています。また、福岡市民にはおなじみの博多祇園山笠において、現在は久留米絣が主流の当番法被ですが、かつては箱崎縞で作られていたのだそうです。

そんな箱崎の人々の日常に寄り添ってきた箱崎縞も、太平洋戦争を機に生産が途絶え、現存する箱崎縞もわずかに確認されるのみ。戦時中の金属類回収令により鉄製の織機も解体されてしまい、そのまま復活することはありませんでした。それから75年の時を経て、2021年に香蘭女子短期大学准教授でファッションデザイナーの尾畑圭祐さんの手によつ



博多祇園山笠「旧東町流・御供所町」の当番法被に使われていたという箱崎縞。現在は久留米絣に変わっている。

て箱崎縞が復元されました。現物がほとんど残っていないため、幻の織物として残っていた箱崎縞について研究を深め、数年前に発見された箱崎縞の端切れから、糸の1本1本を分解し、織りの仕組みや素材、染色に至るまですべてを丁寧に調査することで、生地復元に成功したのです。

単糸で織り上げた縦縞や格子の粋なデザインはそのまま、かつての人々が日常の中で使用していた綿織物を、現代の生活にも取り入れられるような服や布小物として制作しています。復元した生地で作られた衣類や雑貨は、柔らかく肌触りが良いだけでなく、軽く吸水性も抜群で普段遣いに最適です。尾畑さんは「箱崎縞はシンプルに作っても力強さのある素材、その風合いをさらに魅力的に伝えられるよう、これからも研究を続けていきます」と話しています。

取材協力



Maison HAKOSHIMA
ディレクター 尾畑圭祐さん

綿織物「箱崎縞」を復元した生地を使った商品を展開するテキスタイルメーカー。ディレクターの尾畑さんはアメリカの芸術短大、東京の文化服装学院でファッションを勉強。服飾デザイナーを務めたのち、博多織の専門学校博多織DCで技術を学ぶ。現在、博多織職人としての仕事とともに、香蘭女子短期大学ファッション総合学科で講師を務めている。

☑️福岡市博多区御供所町12-2 本山ビル1F
Tel 092-984-0721

URL <http://maisonhakoshima.com/>

営業時間 11:00-17:00

(喫茶ラストオーダー16:30)

定休日 月曜日(十不定休)

